# 第４学年　音楽科学習指導案

○組　　計 37 人
**指導者　○○　○○**

## １　題　材　　せんりつの感じを生かして

**教材**

◎「あいのあいさつ」　エルガー　作曲
◎「ピチカート　ポルカ」　ヨハン／ヨゼフ　シュトラウス　作曲
「あたらしい　えがお」　安西　薫　作詞　　長谷川匡俊　作曲
「とんび」　葛原しげる　作詞　　梁田　貞　作曲
「陽気な船長」　市川都志春　作曲（本時主教材）

## ２　題材について

### (1) 題材の位置とねらい

これまでに子供たちは，第３学年題材「せんりつの感じを生かして」において，旋律の感じの違いに気を付けて歌ったり，旋律線の動きに合うように強弱を工夫して歌ったりする活動を通して，旋律の感じの違いをとらえ，工夫して演奏することの楽しさを味わってきている。さらに子供たちは，さまざまな感じの旋律の楽曲を演奏したり，様子に合うように強弱や速度の工夫をしてみたいという欲求が高まってきている。

そこで，ここでは，旋律の感じに合うように強弱や速度を工夫して演奏したり，違う楽曲の旋律の感じを聴き比べたりする活動を通して，旋律の感じをとらえて表現する能力を育てるとともに，楽曲の表している様子や気持ちを表現しようとする意欲や，曲想を感じ取って表現の仕方を工夫する能力を高めることをねらいとして，本題材「ふしの感じを生かして」を設定した。

ここでの学習は，短調と長調の違いを感じ取り，短調の旋律の感じと歌詞の内容を結び付けた歌い方を工夫したり，短調の感じを生かして表現したりする能力を育てる第５学年題材「イ短調のせんりつ」の学習へと発展していくこととなる。

### (2) 指導の基本的な立場

旋律の感じをとらえて表現する能力を高めるためには，旋律の感じの違う複数の楽曲を聴き比べ，その違いをつかんだり，それぞれの旋律のもつ特徴的なフレーズや，その中に含まれるリズムを感じ取って表現したりすることが効果的である。特にこの期の子供たちには，楽曲を聴いて思い浮かべた様子と旋律の感じを結び付けさせたり，強弱や速度の工夫をさせたりしながら，それぞれの表現のよさを実際に体験しながら味わわせていくことが大切である。

具体的には，まず「あいのあいさつ」を取り上げる。この曲は管弦楽で演奏され，主旋律をバイオリンが中心となってレガート奏法で演奏されている。次に取り上げる「ピチカート　ポルカ」は室内楽で演奏され，主旋律をバイオリンが中心となってスタッカート奏法で演奏されている。そこで，それぞれの旋律の感じから表している様子を思い浮かべたり，体を動かしたりするなどの身体反応の活動を取り入れることにより，二つの旋律の感じの違いをとらえることの喜びや楽しさを味わわせることができるようにする。

次に「あたらしい　えがお」を取り上げる。この楽曲ははずむ感じとなめらかな感じの旋律をもっている。そこで，旋律の感じに合った歌い方の工夫をして，旋律の感じを生かして歌う喜びや楽しさを味わわせることができるようにする。

次に「とんび」を取り上げる。この楽曲はなめらかな感じの旋律をもっており，歌詞の内容や旋律の流れなどからレガート奏法を感じ取ることができる。そこで，とんびが大空をゆったりと飛んでいる様子を想像し，旋律のまとまりや流れから強弱の変化を感じ取って，伸び伸びとした気分で歌ったりリコーダーを演奏したりする喜びや楽しさを味わわせることができるようにする。

さらに「陽気な船長」を取り上げる。この楽曲は明るくはずむ感じの旋律とやさしくなめらかな感じの旋律をもっている。そこで，それぞれの旋律の感じを生かしてリコーダーのタンギング

の仕方や速度を工夫して演奏することの喜びや楽しさを味わわせることができるようにする。

このような学習を通して，子供たちは，楽曲の様子や気持ちが表れるように表現することのよさを味わいながら，旋律の感じを生かして表現しようとする態度を養うことができる。

**(3) 子供の実態**（調査対象　４年○組　37 人）

本学級の子供たちの実態は次の通りであった。

① 旋律の感じを生かして歌ったり，楽器を演奏したりすることは楽しいですか。
　はい（33 人）　いいえ（４人）

② その理由を答えてください。

「はい」の理由
・楽しい，おもしろいから（23 人）　・リズムが変わるから（２人）
・ふんい気が出るから（２人）　・いろいろな歌い方ができるから（２人）
・歌いやすくなるから（１人）　・その他（３人）

「いいえ」の理由
・分からないから（２人）　・むずかしくなるから（２人）

③ 旋律の感じを生かして演奏するために，どんなことに気を付けますか。

・はっきりと歌ったり，のばして歌ったりする（６人）
・リズムに合った歌い方をする（６人）　・ふしの感じのちがいをつかむ（４人）
・ようすをイメージする（３人）　・息つぎのしかたに気をつける（３人）
・口を開いて歌う（２人）　・その他（４人）　・分からない，無答（９人）

④ リコーダーで演奏しましょう。（１回目はなめらかな感じで，２回目ははずんだ感じで）
・１回目…なめらかな感じの特徴をとらえて演奏することができる（25 人）
　タンギングがうまくできない（７人）　指使いがうまくできない（５人）
・２回目…はずんだ感じの特徴をとらえて演奏することができる（26 人）
　指使いがうまくできない（６人）　タンギングがうまくできない（５人）

①から，子供たちの多くは，旋律の感じを生かして表現することに楽しさやおもしろさを感じている。一方「楽しくない」と答えた子供たちが４人いたが，その理由として「(どのように表現すればいいか) 分からないから」「歌い方や演奏が難しくなるから」などという答えが挙げられた（②)。そこで，楽曲や場面の表している様子を具体的に想像させ，旋律の感じを生かして演奏する楽しさを味わえるようにする必要がある。

③から，旋律の感じを生かして演奏するために，歌い方を変えたり，リズムに合った歌い方をしようとする子供たちが少数見られるが，どんなことに気を付けて演奏すればいいのか分からなかったり，考えのまとまっていなかったりする子供が９人いた。そこで，旋律の感じを生かすために，楽曲やその場面の様子と旋律の感じとを結び付ける活動を取り入れたり，感じの対照的な旋律を聴き比べ，その違いを感じ取る活動を取り入れたりする必要がある。

④から，リコーダーをなめらかな感じやはずんだ感じで演奏できる子供は多いが，指使いのうまくできない子供も数人ずついた。そこで，息の強さに気を付けながらタンギングの練習をしたり，楽曲の速さを遅くして正しい指使いを練習したりする活動を取り入れる必要がある。

**(4) 指導上の留意点**

以上のようなことをふまえて，指導に当たって次のようなことに留意したい。

ア　旋律の感じを生かして表現することの楽しさを味わえるようにするために，挿絵や写真，ペープサートなど視覚的に訴えるものを準備することにより，楽曲や場面の表す様子を具体的に想像させ，旋律の感じを生かすことの楽しさを味わえるようにする。

イ　旋律の感じを生かして歌い方やリコーダーの演奏の工夫ができるようにするために，範唱や範奏を聴いて旋律の感じをとらえさせたり，工夫しようとする表現とは逆の感じで表現させたりして，楽しみながら活動できるような場の設定の工夫をする。

ウ　旋律の感じを生かしてリコーダーで演奏できることができるようにするために，教師との模倣遊びなどを通して，タンギングの仕方を工夫したり，正しい指使いを学ばせたりしていくようにする。

## ３　目　　標

(1)　旋律の感じの違いを感じ取って表現したり，**強弱や速度の変化を生かして表現したりすることができる。**【知識及び技能】

(2)　曲名や歌詞の内容と歌い方やリコーダーの奏法とを結び付けながら，表現の工夫をすることができる。【思考力，判断力，表現力等】

(3)　旋律の感じの違いに関心をもち，旋律の感じを生かした表現になっているかを振り返りながら，粘り強く学習に取り組むことができる。【学びに向かう力，人間性等】

## ４　指導計画（全７時間）

| 過　程 | 時 | 教　材 | 主　な　学　習　活　動 | 教　師　の　働　き　か　け |
|---|---|---|---|---|
| 課　題<br>把　握<br><br>課　題<br>追求Ⅰ | 1 | 「あいのあいさつ」「ピチカートポルカ」<br>「あたらしいえがお」<br>「とんび」<br>「陽気な船長」 | 「あいのあいさつ」のせんりつの感じに気をつけてきこう。<br>○　「あいのあいさつ」を聴き，感じたことや気付いたことを話し合う。<br>・なめらかな感じ　　・バイオリンが中心<br>○　旋律線を指でなぞったり，指揮まねをしたりしながら聴く。 | ○　楽曲のイメージを膨らませることができるようにするために，曲名や演奏形態は知らせずに聴かせるようにする。<br>○　旋律の感じをつかむことができるように，旋律線を簡単に示したものを提示し，指でなぞりながら歌ったりする。<br>○　「あいのあいさつ」と旋律の感じが違うことに気付くことができるようにするために，前時に「あいのあいさつ」を聴いたことを想起させる。 |
| | 2 | | 「ピチカート　ポルカ」のせんりつの感じに気をつけてきこう。<br>○　「ピチカート　ポルカ」を聴き，感じたことや気付いたことを話し合う。<br>・はずんだ感じ　　・バイオリンが中心<br>○　「あいのあいさつ」と「ピチカート　ポルカ」を演奏している様子の映像を視聴する。 | ○　楽曲の旋律の感じのちがいが奏法の違いによって生み出されることに気付くことができるように，演奏している映像（ＬＤ）を視聴させるようにする。 |
| 課　題<br>追求Ⅱ | 3 | | せんりつの感じのちがいを生かして歌おう。<br>○　範唱を聴き，旋律の感じの違いについて話し合う。<br>○　旋律の感じの違いに気を付けて歌詞唱する。<br>○　相互発表・鑑賞する。 | ○　旋律の感じの違いに気付き，その違いを生かして演奏するために，これまで学んできたことを想起させるようにする。 |
| 課　題<br>追求Ⅲ | 4 | | ようすを思いうかべながら歌い方をくふうしよう。<br>○　範唱を聴き，情景について話し合う。<br>・とんびの飛び方や鳴き声について<br>輪を描いて「ピーンヨロ」という鳴き声<br>○　主な旋律を歌う。<br>・なめらかな感じでゆったりと<br>・「ピーンヨロ」の強弱の工夫 | ○　とんびが飛んでいる様子を思いうかべることができるように，さし絵を基に，とんびを見た経験について話し合わせたり，映像で飛ぶ様子を視聴させたりする。<br>○　「ピーンヨロ」の鳴き声のところの強弱に着目することができるようにするために，輪を描いて飛ぶ様子と歌い方とを関係付けてとらえさせるようにする。 |
| | 5 | | リコーダーのせんりつを重ねてえんそうしよう。<br>○　リコーダーの旋律を階名で歌う。<br>○　たっぷりとゆったりと演奏できるように息づかいやタンギングを工夫する。<br>・ロングトーン<br>・トゥートゥーというタンギングで。 | ○　範唱を聴き，リコーダーの音色ととんびの鳴き声を関係付けるようにする。<br>○　音がゆれたり，乱暴になったりしないように，ロングトーンをして長く伸ばす競争をしたり，やわらかいタンギングでリズム遊びをしたりする。 |
| 課　題<br>追求Ⅲ | 6 | | 船長さんがどんな様子かを思いうかべて，えんそうのくふうをしよう。<br>○　範奏を聴いて，ア の部分と イ の部分の船長の様子を想像する。<br>ア の部分：・元気な船長　・ゆかいな船長　・おどりだしそう<br>イ の部分：・昼ねをしている　・口ぶえをふいている<br>○　スタッカートの記号について知り，奏法に気を付けて演奏する。 | ○　範唱を聴き，息づかいやタンギングと音色を関係付けて演奏させる。<br>○　息を続けながら，タンギングするなめらかな奏法をつかめるように，範奏と比較しながらタンギングの感じをつかめるようにする。<br>○　はずむ感じとなめらかな感じを豊かに感じ取って表現の工夫ができるように，船長さんの挿絵を提示し，船長さんの様子について言葉で表現させる。<br>○　旋律の感じの違いがよく表れるように，スタッカートでリズム模倣をして，息づかいやタンギングをつかめるようにする。 |
| 課　題<br>解　決<br><br>まとめ | 7<br>（本時） | | 船長さんの様子がもっと出るように，速さを工夫してえんそうしよう。<br>○　**速度を変えた範奏を聴く。**<br>○　**自分たちの考えた船長さんのイメージに合うように速度を工夫して演奏する。**<br>○　相互発表・鑑賞する。<br>○　録音して，前時の演奏と聴き比べる。 | ○　**場面の様子に合わせて速さを変えることをとらえ直しできるようにするために前半と後半の速度を変えた範奏を聴く活動を取り入れるようにする。** |

## ５　本　　時（７／７）

### (1) 目　　標

ア　楽曲の前半と後半の**船長さんの様子を基に，速度を工夫してリコーダーを演奏することができる。**【知識及び技能】

イ　旋律の感じの違いに関心をもち，**船長さんの様子に合わせて速度を工夫する活動に進んで取り組むことができる。**【学び向かう力，人間性等】

### (2) 本時の展開に当たって

子供たちが，船長さんの様子に合わせて速度を変えることをとらえ直しできるようにするために，**速度を変えた範奏を聴く活動を取り入れる**ようにする。また，速度の変化や工夫をよりよく感じ取ることができるようにするために，ペープサートを動かしたり，身体反応をしたりする活動を取り入れるようにする。

### (3) 実　　際

| 過　程 | 主　な　学　習　活　動 | 時間 | 教師の具体的な働きかけ |
|---|---|---|---|
| 課題把握 | 1　前時の学習を想起し「陽気な船長」の合奏の録音を聴く。<br>2　範奏を聴き，本時のめあてについて話し合う。<br>船長さんの様子がもっと出るように，速さを工夫してえんそうしよう。<br>・　速さが変わっていておもしろい。<br>・　さらに急いでいる様子やのんびりした様子が伝わってきたよ。 | (分)<br>10 | ○　自分たちの前時の演奏と範奏とを比較し，範奏のよさに気付くことができるようにするために，「自分たちの演奏とどんなところが違うかな」など，焦点化した発問を投げかけてから範奏を聴かせるようにする。<br>○　速度を変えた範奏のよさに気付くことができるようにするために「速さを変えると，船長さんのイメージがどんなふうに変わるかな」などと問いかけるようにする。 |
| 課題追求<br>表現の工夫 | 3　速度の工夫の仕方について，グループで話し合う。<br>・　ぼくたちはアをもっと速くして，船長さんが走っている様子を出そうよ。<br>・　イの最後の部分をもっと遅くして，船が止まってしまう感じを出したいな。<br>4　話し合ったことを基に，グループごとに練習する。<br>(1) グループ単独で練習する。<br>(2) ２グループで演奏を聴き合う。<br>(3)　(2)での意見を基に，もう一度グループ単独で練習する。 | 30 | ○　速度の変化の仕方を船長さんのさまざまなイメージで工夫して演奏することができるようにするために，グループごとに速度を工夫させるようにする。<br>○　速度と船長さんの様子とを結び付けるために，ペープサートを用いて船長さんの様子のイメージを膨らませるようにする。<br>○　他のグループがどんな工夫をしているか学び合うために，２グループで聴き合う活動を取り入れるようにする。 |
| 相互発表・鑑賞<br>まとめ | 5　グループごとに発表する。<br>6　発表と，前時の演奏とを聴き比べる。<br>7　学習のまとめをする。<br>・　速さの工夫ができておもしろかった。<br>・　速さをいろいろ工夫すると，ふしの感じがもっと出ることがわかりました。 | 5 | ○　速度を変えた演奏がよりよい音楽表現になっていることを実感するために，発表時の演奏と活動前の演奏と比較鑑賞する活動を取り入れるようにする。<br>○　本時で学んだ表現の工夫をこれからの学習に生かすことができるように，学習のまとめをする。 |